

第2回 円山川流域懇談会 議事録（概要版）

日 時： 平成 29 年 3 月 3 日(金) 14 時 30 分から 16 時 30 分
場 所： 豊岡市立交流センター「豊岡稽古堂」交流室 3-1

■議事次第

1. 開会
2. 挨拶
3. 議題
 - 1) 円山川水系河川整備計画の進捗点検について [資料 3]
 - 2) 円山川水系河川整備計画の事業実施について [資料 4]
 - 3) その他
 - ・ 想定最大規模降雨における洪水浸水想定区域図について [資料 6]
 - ・ 今後の予定
4. 閉会

■審議内容

- 1) 円山川水系河川整備計画の進捗点検について（資料 3）

円山川水系河川整備計画の進捗点検について、事務局から資料に基づいて説明があり、点検状況の取りまとめ方などの内容が確認された。

- 2) 円山川水系河川整備計画の事業実施について（資料 4）

円山川水系河川整備計画の事業実施について、事務局から資料に基づいて説明があり、実施・進展状況について質疑がなされた。それらの主な内容は以下のとおりである。

【意見】安全利用点検において陥没への対応事例が報告されたが、これまで円山川では同様の事例はなかったのではないのか？高水敷に空洞ができて陥没する事例は加古川では多くあって、調査・探査がなされている。空洞の調査等は実施するのか？（資料 4_P16）

【回答】陥没の理由や状況がわからない場合には空洞の調査をするが、今回はフトン籠回りと原因が明確であり、これまでも原因が判らないような事例はなくこの 3 年ではそこまでの調査はしていない。

【意見】来日川の付け替え橋の部分の特殊堤は河岸を前出ししているが、掘削等をして河積を確保しているのか？また、今は工事用道路の段階なのか？（資料 4_P1）

【回答】河積については対応している。今は工事用の道路を建設している。平成 31 年度に撤去する予定である。

【意見】堤防等の点検の頻度は 1 級河川ではこの程度なのか？

【回答】過去には毎日点検していた時もあったと思うが、現在は基準に基づき堤防については週 2 回実施している。

【意見】外来種対策をもう少し考えてもよいのではないのか。淀川では外来種対策の委員会が設けられている。（資料 4_P11）

【回答】外来種対応もしっかり行っていく。

【意見】現地視察した堤防の質的強化対策箇所では、施工前にチガヤが存在していたが、施工後は張芝となっている。チガヤは堤防に望ましい植生であり、多少とも残存していればそれに遷移していくと

考えられるため、施工時に復元や補完間するようなことも考えてみてはどうか？良いものを残すやり方は他にもやっている。（資料 4_P6）

【回答】 高水護岸では従前の土を利用して覆土している箇所もある。チガヤでの補完については前向きに検討する。

【意見】 下流部無堤対策の第 1 段階整備が H25 時点と H27 時点で 85%のままで進んでいない。なぜ 85%のままなのか？（資料 4_P1）

【回答】 第 1 段階で残っている箇所は主に樋門等の設置箇所で用地買収が必要なところである。

【意見】 第 1 段階も完成していないのに、第 2 段階が進んでいるのはおかしいのではないかと？

【回答】 第 1 段階整備の堤防高さに近い道路高のある箇所では、第 1 段階整備の一連工事として同じ工程の第 2 段階の整備を進めている。

【意見】 合流部の落差解消について、H25 時点 0%が H27 時点で 100%になった。たしかに寺内第一樋門は魚が上りやすくなったが、その先の水路が上りやすすくない。今後の対策はないのか？（資料 4_P13）

【回答】 環境事業は整備が 100%となっても対策が終わりとは考えていない。全体として良くなっていくよう兵庫県、豊岡市、地元と協働して進めていく。

【意見】 モニタリングの結果は、確認された種数の増減はわかるが、具体の種類がわからない。（資料 4_P14）

【回答】 モニタリングについては、確認種増減の理由を分析した結果があるので、適切に反映できるよう工夫していく。

【意見】 無堤部対策によって、どの程度被害を減らすことができたのか？平成 21 年台風 9 号だとどの程度なのか？（資料 4_P1）

【意見】 無堤地区対策、水位低減対策に関して、どの程度流下能力が確保されているのか？（資料 4_P8）

【回答】 台風 23 号での実績被害では氾濫水が JR を越えていた。越水であれば台風 23 号レベルでは溢れなくなっている。

【意見】 堤防決壊としてはどの程度（リスクが）減っているのか？床上浸水戸数がどの程度減るのかデータ等をコメント欄等に記入してほしい（資料 4_P8）

【回答】 整備によって堤防幅が広がっており、堤防決壊の危険性が低くなっていることは確かだが、決壊が起こるのは様々な要因が重なるため、100%決壊しないということは言えない。床上浸水戸数等は整理し、今後資料に追記する。

【意見（座長）】 決壊についてはリスクの定量的な整理は難しいと思う。堤防高については、レーザープロファイラを用いて（空間連続的に）定量的な管理もなされている。

【意見】（激特事業で）河道掘削した場所に土砂がたまっているのではないかと？ひのそ島、一日市島が削られているが、舟やボートの通航状況から、そこからの土砂が下流の河道にたまっているのではないかと推察している。

【意見（座長）】 これについては測量のデータを示して議論する必要がある。

【意見】（激特事業で）出石川の合流点まで掘削するということで、残土処分の用地も確保されたが途中で頓挫したのか？

【回答】 頓挫ではない。必要な掘削量を精査して実施している。たまっているならば今後維持掘削をしていくが、平成 21 年度と平成 25 年度の定期測量結果によると一部たまっていたが、流下能力に問題はなかった。次は平成 30 年度に河道横断測量を行う。

【意見（座長）】 データ、経緯はまとめておきたい。

【意見】 中郷遊水地に水を入れるのは上流からのようだが下流から入れる方法もあるのか？（資料 4_P7）

【回答】スムーズに水を遊水地にいれるということで上流側から水を入れている。

【意見（座長）】上流側の方が水位が高いので、遊水地に水を入れやすい。

【意見】遊水地内にたまった土砂はとるのか？

【回答】定期的なメンテナンスは行っていく。

【意見（座長）】通常、横越流方式で流入させるので細粒土砂が堆積する。

【意見】出石川の二面張り護岸を少しずつでも改善する努力をしてほしい。（資料4_P9）

【意見（座長）】二面張りは環境的に良くないため、水際でのエコトーンを考えながら改善してほしい。

【意見】湿地の質的改良に当たっては、工事発生の石礫の利用も考慮して欲しい。（資料4_P9）

【意見】河積を確保することは大事なことである。写真上で堆砂が見られないということだが、写真では（水面下は）確認できない。堆砂する部分は深い所まで確認する必要がある。（資料4_P22）

【回答】今回は進捗状況の報告を行うという観点で、主に堤防、構造物の整備状況により進捗率を出して説明したが、今回の議論により、整備計画に基づいて実施した事業について、例えば、平成16年の時と比べて浸水面積がどの程度減少し、家屋がどれだけ守られてきているか、また、河床にどれだけ堆砂が進行して元の状態に戻っているかについても、次回では分かりやすく示して行きたい。

3) 想定最大規模降雨における洪水浸水想定区域図について（資料6）

想定最大規模降雨における洪水浸水想定区域図について、事務局から資料に基づいて説明があり、それについて以下のような意見が出された。

【意見】P13で確率規模100年と1000年とを比較されているが、確率規模100年はH18.3河道、1000年はH28.6河道についての結果で良いか。確率規模1000年でH18.3河道の場合は計算していないのか。その場合、確率規模100年から1000年になっても浸水区域は大きく変わらないのか。

【回答】確率規模100年はH18.3河道で1000年は激特整備後の河道断面を考慮したH28.6河道である。浸水想定区域図の作成はあくまでも現況河道を対象とするため、確率規模1000年でH18.3河道の条件は計算していない。現況河道では、確率規模100年から1000年になっても河道整備の効果により浸水区域は大きく変わらない状況である。

【意見】生活している立場からは、氾濫に対してどういうふうに対処していこうかと個人的によく考える。生活している者として、氾濫した場合に（個人として）どういう工夫ができるのか、また都市計画を今後どうしていくのか、そして避難する場所をどのように確保するのかといったよう（な具体的な情報が欲しい。）当面避難場所をしっかりと作って頂きたい。多分管轄が違うと思うが、この件についてはそういった観点も必要であると思う。

【回答】どのような条件・方法で浸水想定図を作成したのかという技術的な説明であったが、出来上がった浸水想定図を基に豊岡市と協働して、各地域、学校単位での防災の勉強会などで活用して頂くようにしていきたい。備えるという形で作成するものが浸水ハザードマップになり、それらを用いた備えるための取り組みについては我々もしっかりやっていきたいと思う。

4) 今後の予定について

平成29年度、30年度に事業報告会、平成31年度に流域懇談会を予定することが事務局から説明され、了承された。

以上